

令和4年8月（2022年）No.680

OMC撮影コンテスト

高瀬氏の「柳田國男の故郷」^{ふるさと}に凱旋

去る5月14～15日兵庫県福崎町で行われた、OMC恒例の一泊撮影会は参加者11名で3年ぶりとなって、ひとしお楽しいひと時だった。さて、その時の作品コンテストが、7月第2例会で開催。病氣療養中の進藤氏を除き、なんと、参加者全員10本の作品が出品された。せっかくの撮影会で撮影された映像を寝かすことなく、成果品として活かして頂いた各位に感謝する。

上映順はくじ引きで決め、一番良いと思われる作品に3点、2番目は2点、3番目は1点の持ち点で、非参加者も含めた全員で審査、投票の結果次の通りの成績となった。

入賞3氏のほか出品者全員に会長より記念品が贈呈され、拍手のうちに公開審査は無事終了した。

■ 最優秀賞	「柳田國男の故郷」	8分00秒	高瀬辰雄
■ 優秀賞	「妖怪会議」	5分26秒	上総秀隆
■ 秀作賞	「柳田國男の故郷」	10分51秒	宮崎紀代子
■ 努力賞	「柳田國男の里・福崎」	14分50秒	合原一夫
■ //	「柳田國男のふるさと」	8分00秒	江村一郎
■ //	「福崎の町おこし」	11分00秒	山本正夢
■ //	「妖怪の棲む町」	11分00秒	紙本 勝
■ //	「わたしは妖怪のなかまに」	11分00秒	岡本至弘
■ //	「妖怪めぐり」	12分21秒	鉄具嘉男
■ //	「福崎町妖怪で町おこし」	12分58秒	中川良三



最優秀賞



優秀賞



秀作賞

以上の通りの結果となりました。秋の公開映写会では、この中から1作品が採用されて、プログラムに記載されます。

8月例会のご案内

- 8月27日（第4土曜日）18時より、難波市民学習センターに於いて
- ☆ 第7次コロナ禍の警戒中、皆さん気を付けてご来場ください。

撮影会作品コンテスト

講 評

会長 合原一夫

同じ場所に、同じ時に皆で撮影した映像でも、構成、脚本、編集の仕方に依って作品の仕上がりが違ってきます、この事をはっきり認識させるのが、撮影会作品の面白さではないでしょうか。作者が主に何を主眼に作品をまとめられたか、に興味湧いてきます。最優秀賞の高瀬作品は、2日目は欠席され、1日目だけの撮影でしたが、1日目の撮影だった柳田國男関連の映像だけでまとめられましたが、さすが高瀬さんの力量だと思います。2日目も居られて妖怪たちのカットもあれば、さらに奥行きのある作品になったことでしょう。



最優秀賞

2位だった上総作品、妖怪たちを主役にしてしゃべらせる、という構成は成功だと思います。愉快的な作品となりました。ラストの「宿泊施設が無いから姫路に泊りに行った」「あんた町長に立候補しなはれ」あたりのセリフがまとめとしてよかったですね。



2位

3位の宮崎作品、全体的に幅広く捉えられた。柳田國男に著書「故郷七十年」から引用されて、ナレーションを組み立てられているのが分かり易く解説されていて、見ていて理解できる。又、宮崎さんのナレーションは明瞭でしゃべり方がうまいのには感心します。



3位

江村作品；ノンナレで字幕解説されているので、福崎町の柳田國男関連の雰囲気は出ています。ガジロウが池から出てきて子供らが、きゃあきゃ騒ぐカットは全作品の中でも一番よく描かれていました。犬が吠えるカットも印象的でした。

山本作品；トップシーンがもち麦、駅前ガジロウから次に三木家の紹介、銀の馬車道、鈴森神社、そして柳田國男の生家、辻川郵便局、銀の馬車道、熊野神社、そして柳田國男の生家、そこにカップが登場？この辺りで柳田國男関連のカットが出る等、淡々と描かれ、後半に妖怪が出て無気味なBGMでまとめられています。題名が町おこしなので、これはこれで成功した編集方法だったのではないのでしょうか。

紙本作品；ナレーション入りで福崎町の観光ガイドとしても使えるような作品。

柳田國男の事を柳田国吉とナレーションで言われているのは気になりました。

妖怪たちのいわれを詳しく解説されているのは紙本作品だけ。よく調べられたものと感心します。

岡本作品；前半は福崎町の紹介や柳田國男関連などほかの作品と同じようなまとめ方ですが、後半は妖怪場面で作者自身も加わるという趣で仕上げられています。タイトルが「わたしは妖怪のなかまに」ですから。仲間になったつもりで撮られたのでしょうか。

紙本作品の妖怪の生まれた主旨、いわれ等を参考に、「そういういわれが、あったんやなー」といった語りかけで妖怪を可愛がる仕草などで作品を纏められたら、もっと親しみの持てる内容になったのではないかと思います。作者の表情が硬いカットが多いのも気になります。

鉄具作品；初日取った映像と2日目に撮った映像を逆の順序で編集されています。作文風なナレーションですが、最初から妖怪たちが出てきますと、福崎の街になぜ妖怪か、という疑問を持たれる方もいると思います。ここは柳田國男の民族学の影響で妖怪たちが生まれた、又、それを町おこしに使っているんだという事を理解させるにはやはり初日取った柳田國男に関する説明を先に持ってきた方がよいと考えます。

この作品で不足しているのは、柳田國男の生家があり、彼が民俗学の先覚者であることから妖怪話を、福崎町の町おこしに利用していることを表現する事でしょう。

中川作品；グーグルアースの地図で場所の説明、トップシーンは中川さんならではの表現です。電子版ナレーションも大分自然の声に近付いてきたという印象です。

駅前の観光センター、辻川山公園、河童が池から顔を出すことで観光客が増えたとありますが、ガジロウが池から顔を出すところの観光客の扱いが中途半端で、もっと観客、特に子供の姿を取り入れるべきところです。この点、江村作品を見習ってください。妖怪巡りの後半、ナレで説明されていますが、妖怪の名称を字幕でも入れると、観る人の印象と理解が深まるでしょう。

途中一瞬、作者と同席の妖怪が後の方ではありますが、ご愛敬とはいえ、やはり省くべきでしょう。最後

にこれらの妖怪たちが、町おこしに一層役に立ち、観光客が増えてくることを願って止みません、とのコメントで締めくくると、題名の「福崎町妖怪で町おこし」が生きてくるでしょう。

最後に私、**合原作品**について；私は福崎町が柳田國男の故郷だとは知らず、図書館で借りた柳田國男の「遠野物語」から柳田國男は東北の人だとばかり思いこんでいたので、つい遠野に行くのは大変だから福崎なら近いから一度行ってみよう、との動機から、この「柳田國男の里・福崎」の作品が作られました。との出だしになっています。福崎町へ着き水槽の「ガジロウ」らのお出迎いで、町も観光に力を入れているなあ、という第一印象。辻川山公園一帯で柳田國男の事をあらまし理解したうえで、妖怪めぐりを始めましたが、これだけ観光に力を入れているのに観光客が少ないことを実感。作品の中で「妖怪祭り」や「妖怪仮装カーニバル」等の提案をしてみたが、果たして実現するか？問題提起をしたのが私の作品だけだったのが、私の作品の特徴だったかも…。

OMC映像フェスティバル プログラム決まる

10月1日(土)に大阪市立中央会館で予定されている「題62回OMC映像フェスティバル」の発表作品プログラムが8月1日に行われた幹事会で、下記の通り決定した。

プログラム (上映順)

第一部	第二部
① 柳田國男の故郷 11分 宮崎紀代子	⑧ 島のお祭り 8分 岡本至弘
② 花言葉 7分 中川良三	⑨ 鯖街道 10分 山本正夢
③ 加悦鉄道 13分 紙本 勝	⑩ ごみのゆくえ 10分 上総秀隆
④ 神になった 柿本人麻呂 10分 鉄具嘉男	⑪ 友禅ひとすじ 6分 中村幸子
⑤ 撮影会の友人 5分 植村朝一	⑫ カトマンズの若い世代 8分 西村光雄
⑥ 佐渡島金銀山跡巡り 14分 進藤信男	⑬ 友ヶ島 5分 江村一郎
⑦ モブ ランを望みながら 9分 関 剛	⑭ 信楽&岡本太郎 8分 高瀬辰雄
	⑮ 米寿を越えて 20分 合原一夫
休憩	

- 出品者はコメント30～36字の範囲で「である」調で作成、メールまたは郵送などで岡本副会長宛8月20日(土)までに送付の事
- 作品は保全してあるものを使いますが、少しでも変更したものはBDにして8月例会にご持参ください。
- 出品料は8月例会日もしくは9月第2例会日に決められた額を宮崎会計担当にお納めください(10分まで1万円、1分増す毎に千円アップです)

今回のプログラムは例年に戻してA4版表裏印刷、封筒で送るようにします。皆さん宜しくご協力ください。

7月通常例会レポート

コロナが又増えだした。大阪でも一日2万人ほどの人が感染しているというニュースを見ると、再び会場閉鎖等の心配が出てくる。緊急事態宣言は出ないと思うが不気味だ。そのせいもあってか今月は例会の集まりが11名に留まり、いささか寂しかった。司会は岡本氏、書記、合原会長の担当でまずは上映に入った

上映作品(今月の講評は合原会長)

1, スイス紀行2・ゴールデンパスの車窓から

関 剛

11分20秒

<作者コメント>

スイス中西部の田舎町ツヴァイジンメンからレマン湖畔のモントールまで、およそ62キロの山あいを約2時間かけて走る観光列車。

<会長コメント>

今はコロナで海外旅行もしづらいが、往年の元気な頃、私も海外旅行に行ったが、やはり高齢になると海外へ行く元気はなくなる。作者の作品を観ていると、海外旅行を楽しんだ頃を思い出すが、こうして残された映像は年を取らないから素晴らしい。観ていて思い出が尽きないからだ。



2, 雲雀山・得生寺

BD

岡本至弘

12分20秒

<作者コメント>

2017年5月OMCの撮影会作品の一部改作です。奈良時代を生きた聡明な美女中将姫ゆかりの寺、得生寺で行われた、来迎会式をまとめたものです。

<会長コメント>

撮影会作品として一部メンバーが場所等分担して撮影したこともあり、寺の内部にまでカメラが入って舞台裏を撮影するなど奥行きのある作品になっている。ラストカットのドローンによる上空からの寺全体を撮影（関氏提供）カットが活きている。



3, 下津井・風の道

BD

江村一郎

8分00秒

<作者コメント>

昔々備前岡山の南の玄関として北前船の出入りで賑わった下津井は、民謡「下津井節」でも知られる。その下津井から茶屋町まで軽便鉄道（ナロゲージ）があった。軌道跡はウォーキング、サイクリング道路として風の道となる。現在の下津井電鉄（下電）鉄道撤退あとはバス事業や不動産事業として存続し操業110年を迎えた。

<会長コメント>

廃線紀行の一つ。今回は岡山県下津井まで出かけて撮影されている。紙本さんと共に江村さんも健脚ぶりを発揮。ネットから拝借したという民謡「下津井節」が雰囲気盛り立てていた。現地の人の声。インタビューが欲しかった作品ではある。



4, サーディニア島

BD

山本正夢

8分25秒

<作者コメント>

コロナ流行前に行った最後の海外旅行。

この島は特に観光の目玉になるほどの名所も無く静かな所なので昔の雰囲気が残っています。

<会長コメント>

山本さんの海外旅行作品は、誰も行ったことがないところに行かれたものだけに、初めて見る異国の風景について見とれてしまう。

今回はイタリアの離島へ行かれた時の様子。コロナ前の最後の海外旅行作品だそうで海外旅行の夢を追いかけるつもりで拝見。



5, 鍛冶屋船

BD

紙本 勝

9分00秒

<作者コメント>

JR加古川線から分岐した高砂線・三木線・鍛冶屋線・北条鉄道は、北条鉄道以外廃線となりましたが、この作品で4社とも、作品とすることが出来ました。鍛冶屋線には車両静態保存もあり、必見の価値がある処でした。

<会長コメント>

廃線紀行27とタイトルのところにあっただので、このシリーズも27番目の作品という事であろう。それ



にしても随分と歩いてこられたものと、紙本さんの健脚ぶりに改めて敬意を表したい。逆に考えれば、いつも歩いて撮影を楽しんでいらっしゃるから、あれほどのご健脚ぶりだとも言える。

6, 2022 祇園祭り

鷹山 196年の時を越えて BD

高瀬辰雄 13分10秒

<作者コメント>

禁門の変で焼失した祇園祭の山鉾、鷹山が196年の時を越えて今年、復活した。急いで編集したため、BGMの選曲が難しく、以前、ほかの祇園祭りの作品で使用したのを使いました。

<会長コメント>

196年ぶりに復活した「鷹山」の組み立てから動き出すまでの過程を丁寧に記録されていて、撮影のご苦労ぶりが伺われる。

記録としては貴重なものである。だが、一方から見ると196年ぶりに復活したと、いう人々の喜び、感動が伝わってこないのは残念である。やはり地元の方、おばあちゃんでもいい、おじいちゃんでもよいがそういう長い夢が実現する、という感動の音が聴けたら、更に深みのある作品になっただろうと思う。インタビューの不得手な私から言うのも変だが、中村幸子さんの、インタビューを得意とするお力を借りるのも一考かなと思う。

しかし立派な作品でした。

7, ガス床暖房 BD

上総秀隆 4分30秒

<作者コメント>

2020年夏改築工事三部作の一つ。ガス床暖房設置工事の映像から床暖房の仕組みが、おおよそわかる。

<会長コメント>

家庭で本格的な床暖房工事を行うことはまれだと思う。最近の床暖房工事こういうものだと理解が出来た。

8, 東京時代祭 DVD

合原一夫 11分45秒

<作者コメント>

「時代祭」と言えば京都だが、平成元年、東京でも「東京時代祭」が始まった。この作品は4年後の平成4年に撮影したものだが、浅草寺を出発地として、浅草の町を行列が繰り広げられる東京時代祭。江戸から明治へと歴史ある舞台だったところから、東京ならではの祭り行列だった。今はコロナ過で中止であろうが、もう一度見てみたい懐かしの時代祭だ。



7月第二例会レポート

この夏は蒸し暑い日で、日中外に出るのがしんどい。それでも日本人らしく外でもマスク姿がほとんど。暑い外ではマスクなしが普通になればよいが、一方では第7次コロナ禍の感染症陽性の人が急増している。もうコロナは治まるかと期待していたが期待外れ。OMCフェスティバルに影響が出なければよいが。

今月の第2例会は前半、撮影会作品の公開審査日。司会・書記共合原会長担当。この結果は別項の通り。後半の部は司会、合原会長、書記、高瀬氏の担当で進行

■ 運営担当：司会 合原、書記 合原（前）、高瀬（後）、YouTube 関係

高瀬、映写 上総、メモリー記録 江村、受付・照明 森下、宮崎の各氏

■ 出席者：岩井、植村、江村、岡本、大久保、上総、紙本、合原、高瀬、

鉄具、宮崎、森下、山本の13氏、関、中川氏は作品のみ

上映作品（書記は高瀬氏）

1. スイス紀行1 ベルン BD
関 剛 9分36秒

(作者コメント)

スイス15日間の旅行で最初に訪れた都市。行政府がある首都だが、実に小じんまりと纏まった街並み。旧市街だけに絞れば一日で観光できる。ベルンとは「熊」の意味もあるらしい。市章は熊だし、町の東はずれに熊を飼う公園もある。

(書記コメント)

スイスの首都、ベルンの街並みを軽快なカメラワークでテンポの良いカット編集で描かれている。噴水像や煙突の上に載った屋根の風景が珍しい。



2. 神様になった 柿本人麻呂 BD
鉄具嘉夫 9分59秒

(作者コメント)

万葉集屈指の歌人、柿本人麻呂はなぜ神様として慕われるようになったのでしょうか。

(書記コメント)

先月、会長コメントでラストに余韻がなく残念という指摘があり、今月、ラストだけを修正された。ラストを余韻のある終わり方に改められ、格調のある作品に仕上げられている。



3. 宮古島の夏 BD
山本正夢 8分10秒

(作者コメント)

コロナの長い自粛で旅行に行かなかったが、今回、友達に誘われ、久しぶりに宮古島に行きました。

(書記コメント)

久しぶりの旅行で、宮古島の自然を存分に楽しまれている様子が画面にあふれている。加えて海軍砲台や古い井戸、地下ダムなど歴史を感じさせる風景もあまつことなく撮影されている。水中カメラで撮られたとかで、海の中の映像も素晴らしい。



4. コロナの夏・吉野川オアシス BD
江村一郎 7分

(作者コメント)

山と川、豊かな自然。悠々と流れる「清流吉野川」を一望できる徳島自動車道の吉野川オアシス。例年だとここで阿波踊りがあったが、この年はいつもとは違った。

(書記コメント)

いつもなら阿波踊りがあるはずの吉野川オアシス、この年はそれとは違った踊り。観客の表情、会場の雰囲気、楽しい踊りなどはよくとらえられているが、舞台との距離や、踊りの内容もあるのでしょうか、「よさこい」のような、いつもの迫力がやや乏しいのは仕方がないのかも知れません。



テープ式ビデオカメラが故障

部品在庫なく修理不能

愛用のテープ式ビデオカメラ・ソニー製HDR-FX7が故障、テープが納まらない事態に。ヤマダ電機を通じてメーカーに修理を依頼したが、部品がないとの理由で返却されてきた。私はまだテープ式を愛用しているので困っている。

どなたか、テープ式カメラゆずって頂けませんか

DV式、HV式、大型、小型に拘らずもう使っていないテープ式カメラをお持ちの方がいましたら、是非お譲りください。よかったらテープも、ご一報をお待ちします。

合原一夫